

アムスルだより

No. 59 2003年 1月10日



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



‘羽’につつまれてくらすエビ

ウミシダカクレエビなど

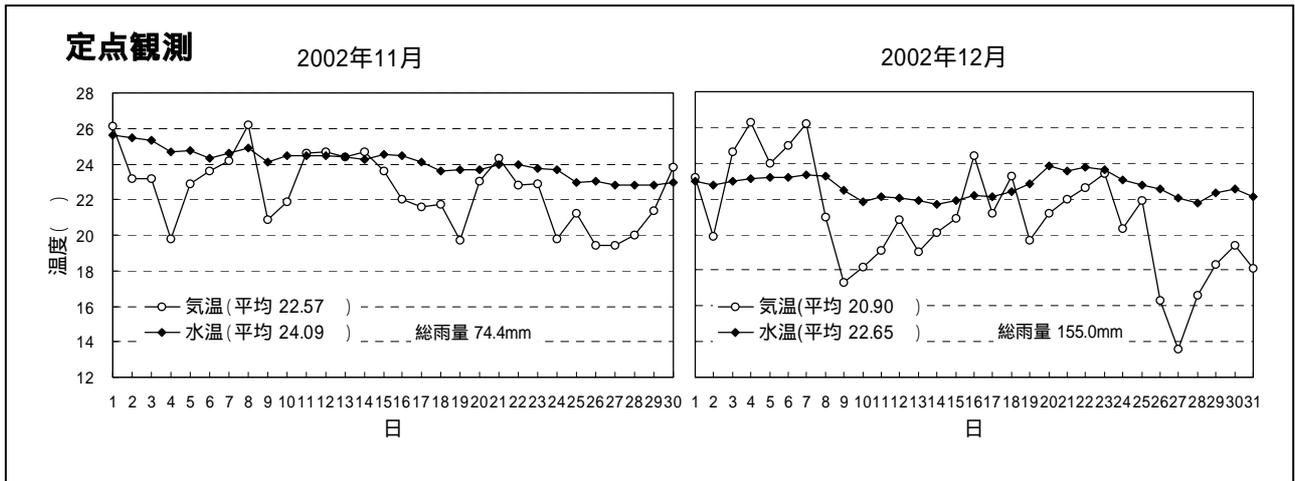
新年明けましておめでとうございます。

今年最初のアムスルだよりは、やっぱり干支にちなんだ話にしようと思いましたが、名前「ひつじ」のつく海の生き物はなかなか見つかりませんでした。ようやく見つけたのがウミシダです。漢字で書くと「海羊歯」。ウミシダそのものについては、もう以前に紹介しているので(No. 34)、今回は、そのウミシダといっしょにくらしている動物たちの話をしましょう。

No. 34では、慶良間には25種類くらいのウミシダがいると書いたのですが、その後くわしく調べてみて、正確には19種類だということがわかりました。そして、それらのウミシダには、ときどきエビやカニ、コシオリエビ(ヤドカリの仲間)

す)などが住みついています。以前、研究所に来たエビの研究者が調べたところ、10種類のエビがウミシダから見つかっています(ただし、まだきちんと名前のわかっていないものもいます)。これらは、ヤシの葉っぱのようなウミシダの腕の間にすみ、ときには腕のつけ根付近にもぐり込んでいます。ウミシダの中に住んでいれば、他の動物たちに食べられる危険が少なくなるのでしょうか。ウミシダは、実に様々な色をしています。そこに住むこのエビたちの多くも、それと同じような色をしています。もちろん、そうすることによって、敵から見つかりにくくなり、身を守るのに役に立っているのは間違いないと思いますが、同じ種類のエビでも、住んでいるウミシダの色によって体の色が違うのです。自分の色にあったウミシダでくらすようになるのか、それともくらしているウミシダに合わせて体の色を変えるのか、不思議でなりません。

エビたちがウミシダの中でくらす利点は、ほかにもあります。ウミシダの腕には、ちょうど鳥の羽毛のように小さな枝(“羽枝”と呼ばれます)がはえていて、ウミシダは、腕とこの羽枝をいっぱいにのばして、海中を流れているプランクトンなどを効率よく捕らえてエサにしています。エビなどのウミシダに住む動物た



ちは、これを横取りして食べているのです。ウミシダは、自分がエサをたくさんとれる場所や安全な場所に移動してくれていますから、そこに住む動物たちは、うらやましいことに、なにもしなくてもエサがあって安全な場所でくらせることになります。

では、ウミシダは、エサをとられて損ばかりしているのでしょうか。ウミシダが得しているところがないか、いろいろ調べてみたのですが、はっきりとはわかりませんでした。けれど、エビたちが腕の間を動き回ったり、エサを食べたりすることによって、ウミシダの体にくっくよごれやゴミ、病気を起こすようなバイ菌などを掃除そうじしてくれているのではないかと想像しています。

阿嘉島の海でウミシダに住んでいるエビたちには、ウミシダカクレエビなどのカクレエビの仲間とコマチテッポウエビなどのテッポウエビの仲間の2つのグループがあります(ちなみに、「コマチ」というのはウミシダのことです)。カクレエビの仲間には、ウミシダだけでなく、イソギンチャクとくらすものやウニとくらすもの、ヒトデとくらすものなどいろいろな種類がいますから、またいずれアムスルだよりでご紹介することにしましょう。

阿嘉島の海より

- 謹賀新年 -

新年明けましておめでとうございます。みなさん、去年はどんな一年でしたでしょうか？島ではこれまでお世話になったクィーンさまに代って「クィーンさまみ」が就航し、阿嘉の港にはターミナルもできました。そして海ではオニヒトデの大発生に悩まされた年でした。島のダイバーを中心にオニヒトデの駆除にあたってきましたが、なかなか状況はよくなりません。今年もまだまだオニヒトデとの戦いは続きそうです。

ザトウクジラもやってきて、慶良間ではこれからホエールウォッチングの季節です。今年もたくさんのクジラが見られるのでしょうか？

これから寒い日が多くなり、海水温もさらに下がってきます。体調に気をつけて頑張りましょう。2003年がみなさんにとってよい年でありますように・・・。

